おもな出品資料

資　料　名	形　質	所蔵先
異国落葉篭	和装本　木版色摺	横浜市中央図書館
北亜墨利加洪和政治州上官真像之写	紙本木版	横浜市中央図書館
フレガツト蒸気船スエスクハンナ	紙本著色	横浜市中央図書館
嘉永六癸丑年六月九日於相模国久里浜浦四家御固之上浦賀奉行亜墨利加国王ヨリ書簡請取ニ付異人上陸ノ図並四御固十分一ノ写附ク近辺御台場後望見ノ図　其一	額装紙本著色	横浜市中央図書館
使節ペリー横浜応接の図	額装　紙本多色摺り	横浜市中央図書館
米国使節の肖像	額装　紙本著色	横浜市中央図書館
海外新聞	綴　木版摺	横浜開港資料館
クーパー船長の扇子	扇	個人
魯西亜船図	紙本木版	神戸市立博物館
魯西亜船并人物図	紙本木版	神戸市立博物館
漂流記	和装本　木版	東京海洋大学
撫養天野屋船南部船外船ニ被助聞書	和装本	東京海洋大学
漂流民上署・海防五策	和装本	東京海洋大学
浦賀与力合原操蔵ヨリ聞書	和装本	東京海洋大学
魯西亜国船渡来記	和装本　2冊	東京海洋大学
北沙奇聞録	和装本	東京海洋大学
環海異聞	和装本　8冊	神戸大学附属図書館
環海異聞	和装本　4冊	神戸大学附属図書館
外国船之図　西暦一八〇四年魯使列散廼追斗来朝並ニ欧州諸国渡来船之図	巻子　紙本著色	神戸大学附属図書館
慎機論	和装本	神戸大学附属図書館
相州浦賀沖之異国船渡来一件	和装本	神戸大学附属図書館
亜美理駕合衆国書翰和解伯理璽天徳書翰和解	和装本	神戸大学附属図書館
日本紀行1-4	和装本　4冊	神戸大学附属図書館
寛政五年文化二年両度魯西亜人渡来一件並弘化二年巳年亜米利加船浦賀入津始末	和装本	神戸大学附属図書館
下田応接之留記	和装本	神戸大学附属図書館
漂流異譚開国之滴	洋装本	神戸大学附属図書館
天保十五甲辰年三月以来浦賀湊江異国船漂着船之絵図并ニ国名乗込人数銘々記	巻子　紙本著色	個人
弘化二乙巳年三月十日亜墨利加国船渡来相州浦賀湊へ引入御三乎警衛之図	まくり　紙本著色	個人
フカケンとアーダムス肖像図	まくり　紙本著色	個人
ロシア人服装図	まくり　紙本墨書	津市教育委員会
環海異聞　海路略図	まくり	津市津図書館
環海異聞　塩路図	軸装	津市津図書館
蘭学階梯	和装本	津市津図書館
環海異聞	和装本	津市津図書館
俄羅斯船図（複製）	額装紙本著色	根室市歴史と自然の資料館
ワシーリィ・ロフツォフ像（複製）	額装紙本著色	根室市歴史と自然の資料館
漂流民津太夫帰国航路世界図（複製）	軸装紙本著色	静岡県立図書館
漂流人帰国松前堅之図并異国人相形図	折本紙本著色	鈴鹿市
漂流船実録	和装本	鈴鹿市
信牌写		鈴鹿市
北槎聞略	和装本	鈴鹿市
従公儀被仰出候御書付之写		鈴鹿市
大黒屋光太夫磯吉画幅	竪幅紙本著色	鈴鹿市
漂民御覧之記		鈴鹿市

大黒屋光太夫記念館だより「大光（だいこう）」第15号

大光

2011年9月発行

軍扇　個人蔵
マンハッタン号の船長・クーパー直筆のサインが書かれた軍扇です。

第7回特別展
黒船がつれてきた漂流者
－大黒屋光太夫からジョセフ彦まで－

ペリーが突然日本にやってきて、日本は開国したような印象を持たれている方は多いと思います。

しかし、日本と通商を求め来航した異国船は、ペリーが最初ではありませんでした。

ペリー来航より約６０年前、すでにロシアが日本との通商を求め来航していました。その時現れたロシア船は、アダム・ラクスマンを使節の長とする遣日使節団の船でした。大黒屋光太夫ら３名の日本人漂流者を日本に送り届けるという名目で日本に来航した北からの“黒船”でした。

そして、ラクスマンが来航してからペリーが来航するまでの間には、実は多くの異国船が漂流者送還を機会として開国を迫ることがありました。

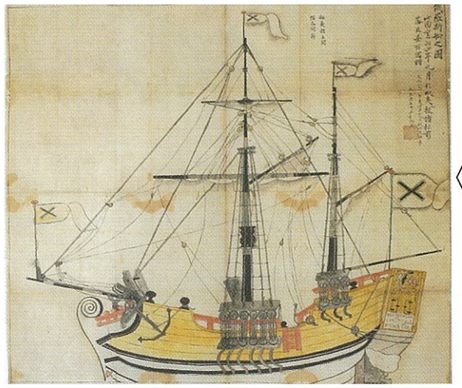
今回の特別展では、異国との交通が極めて抑制されていた江戸時代において、難船により海を渡った“漂流者たち”とペリー来航に至るまでの“黒船来航”との意外なかかわりについて紹介します。

編集・発行：鈴鹿市文化振興部 文化課　ＴＥＬ 059-382-9031
大黒屋光太夫記念館　TEL&FAX 059-385-3797

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業
船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

第7回特別展　黒船がつれてきた漂流者

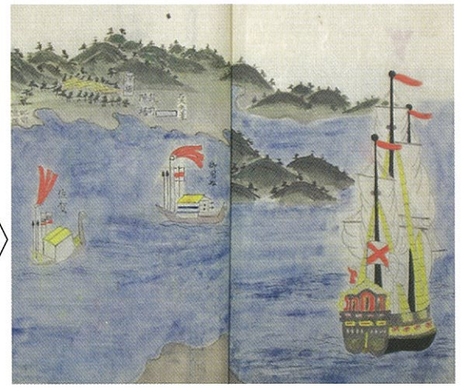
漂流者を送り届けた異国船…実は日本の開国と深い関係があったのです



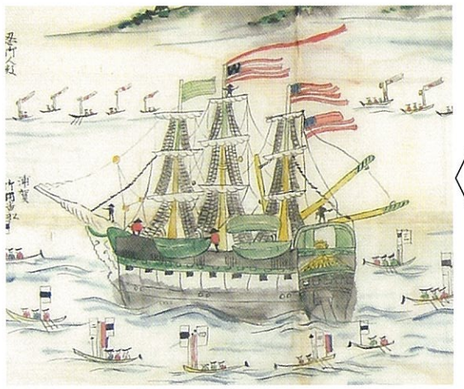
エカテリーナ号　根室市歴史と自然の資料館蔵

ロシアに漂流した大黒屋光太夫たちを日本に送り返すために、ロシアから遣日使節が派遣されました。光太夫・磯吉・小市の３名と４０人以上のロシア人を乗せたエカテリーナ号は、北海道の根室に入港しました。松前で開かれた３度にわたる日魯会談で、ラクスマンは日本とロシアの通商を提案し、幕府はラクスマンに信牌（長崎への入港許可証）を与えました。

光太夫が帰国した翌年にロシアに漂流した若宮丸一行は、日本との通商を目論むレザーノフによって送り届けられました。長崎に入港したレザーノフは、ラクスマンが持ち帰った信牌を所持していましたが、通商を拒否され、虚しく日本を退去させられます。その報復として、部下のフヴォストフが樺太や択捉などを襲撃し、日ロ関係は緊迫します。



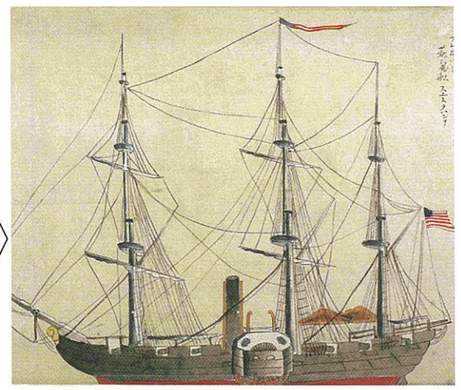
ナジェジダ号　神戸大学附属社会科学系図書館蔵



マンハッタン号　個人蔵

大黒屋光太夫の帰国を皮切りに、幕府の海防政策は、緊迫した局面を迎えました。頻発する海防問題に対し、異国船打払令が出され、アヘン戦争の清国敗退をうけて薪水給与令に緩和されました。そして、光太夫の帰国から５０年後、２組の漂流者を救助してアメリカの捕鯨船・マンハッタン号が来航しました。特例として浦賀で漂流者の引き渡しが行われました。

マンハッタン号来航から８年後、ペリー艦隊が浦賀沖に現れます。ペリーは日本を開国させるために来航し、アメリカ大統領の国書を浦賀奉行に渡すと、翌年その回答を受け取りに再来航すると告げて日本を離れました。ペリーの２度の来航には、栄力丸漂流者の仙太郎が乗船していました。また、通訳として来日したウィリアムズは、中国で日本人漂流者から日本語を習った人物でした。



サスケハナ号　横浜市中央図書館

ジョセフ彦ってどんな人??

今回の特別展のタイトルにもその名がある「ジョセフ彦」。

特別展開催前から、この人はどんな人？という問い合わせがありました。特別展のポスターをご覧になって、同じ疑問をもたれた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

ジョセフ彦は、日本名を濱田彦蔵と言いました。１４歳の時に栄力丸で漂流して、１７名の仲間とともにアメリカに渡ります。

アメリカには、彦蔵らを日本へ送り届け通商をはじめる機会としようというもくろみがあり、彦蔵らは翌年には香港、そしてマカオへと移されました。そして、そこでペリーを待ち、ペリー艦隊とともに日本に帰ってくる予定でしたが、ペリーのマカオ到着が遅れたため、仲間のうち彦蔵ら３名は再び渡米することになりました。

再びアメリカに着いた彦蔵は、教育を受け、キリスト教に改宗して「ジョセフ・ヒコ」と名乗りアメリカ市民権を獲得します。そして、当時の大統領ブキャナンにも面会しました。やがて、日本が開国すると、アメリカ領事館の通訳として安政６年に帰国しますが、幕末の尊王攘夷の志士らから狙われるようになり、アメリカに避難します。この３回目の渡米の時、アメリカは南北戦争のさなかでした。彦蔵は、「人民の人民による人民のための…」という有名な演説をのこしたリンカーン大統領の新聞記事に触れ、そしてリンカーン大統領本人にも面会しました。

文久２年に再度日本に帰った彦蔵は、外国人居留地で貿易商を営む傍ら、新聞の発行に挑戦します。それが「海外新聞」で、一般の人びとのために民間で発行された最初の新聞でした。外国船がもたらした新聞を翻訳して海外のニュースを伝え、さらに横浜のニュースなどを載せた新聞でした。最初は手書きで配られ、のちに木版で印刷されました。ほとんどが無料で配られたといいます。

やがて彦蔵は、横浜を離れ長崎へ赴きます。そこで桂小五郎（後の木戸孝允）や伊藤俊輔（伊藤博文）たちと交流し、グラバーとも懇意になりました。そして、明治維新後は大蔵省へ出仕したり、製茶貿易などに携わりました。明治30年、東京で没しています。

大黒屋光太夫・ジョン万次郎より知名度は低いですが、日本の近代化の過程で最も活躍した漂流者の1人なのです。

表紙の写真

マンハッタン号のクーパー船長サイン入りの軍扇　横浜市　椎橋様所蔵

マンハッタン号は、弘化２（1845）年３月、小笠原諸島近海で捕鯨をしていました。その途中、航海中の食料であるウミガメを捕るために鳥島に上陸すると、阿波国の漂流者たちに助けを求められました。彼らを乗せて鳥島を出航すると、今度は海の上を漂う陸奥国の廻船を発見し救助しました。２組の日本人漂流者を救助したマンハッタン号は、計22名を乗せて浦賀（現横須賀市）に姿を現しました。

幕府は、このマンハッタン号の人道的な漂流者救助について、「漂流者送還はオランダ船か中国船から長崎で受け取る」という決まりを破り、特例的に浦賀で受取る決断をしました。そして、４日間の浦賀停泊中、マンハッタン号船員と浦賀奉行所の人びとは、船上で交流を深め、幕府から水・米麦・野菜類などを贈られました。

この軍扇には、マンハッタン号の船長・クーパーのサインや船名等が書かれており、浦賀で停泊中に日本の役人の所持していた軍扇にクーパーがサインしたものと思われています。また裏面にはマンハッタン号来航の翌年に浦賀に来航したアメリカのビットル艦隊のものと思われるサインも書かれています。二度の異国船来航に立ち会った人物が所持していたものでしょう。

（ビットルのサインがある面→）

次回の企画展

★冬の企画展「大黒屋光太夫とロシアの文字」★

開催期間　2011年11月17日（木）～2012年3月18日（日）

大黒屋光太夫が遺したロシア文字による墨書を多数展示するとともに、光太夫とロシア語について紹介します。